


授業の実際 2 / 9

(1) 指導目標

「星の世界」の副次的な旋律について、和声の響きの美しさを感じ取りながら歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)、支援 (●)、発問 (★) 児童の主な反応 (・)	評価規準と評価方法
導 入 ／	0 音楽遊びをする。 1 めあてをつかむ。 (1) 「星の世界」の主な旋律を歌う。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○リコーダーで和音づくりをして、楽しく学習が始められるようにした。 ○のびのびとした美しい声で歌わせた。	
	副次的な旋律が、美しい和音の響きになるように歌い方を工夫しよう。		
展	2 和声の響きを感じ取りながら、歌い方を工夫する。 (1) 担当するパートを選ぶ。 (2) どこを、どのように歌いたいか考える。	○各小節ごとに音を伸ばし、2つの副次的な旋律が和音になっていることを確認した。 ○2つのパートを1回ずつピアノに合わせて歌わせてから、自分の音域に合うパートを選ばせた。 ○前時に全体でまとめた見通しを確認した。	
	<p style="text-align: center;">〈前時の学習内容〉</p> <p>★曲のよさや美しさが伝わるように、どのように歌いたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音がぴったりと合うように、互いに声をよく聴いて、響き合うように歌いたい。 ・3つの旋律のリズムを合わせて、溶け込むように歌いたい。 ・3フレーズ目は、特に3つの旋律のリズムをぴったり合わせて、一体になって歌いたい。 		
開		<div style="border: 2px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 発問の工夫③ </div> ○前時に考えた見通しを基に、どこをどのように歌うかを考えさせることで、前時と本時の学習がつながるようにした。 ○旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分に分けさせ、それぞれの部分について考えることができるようにした。	
	<p>★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三部合唱の部分は、歌い出しのタイミングを合わせて歌いたい。 ・きれいな和音になるように、正しい音程で歌いたい。 ・旋律が1つになるところは、ずれないように、リズムや音程を合わせて一体感が出るようにしたい。 		

展	<p>(3) グループで歌い方を工夫する。</p>	<p>○グループで話し合う前に、まず、自分の考えをワークシート（楽譜）に記入させた。</p> <p>○グループでどのように歌いたいかについて話し合わせ、それぞれの考えを共有させた。</p> <p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにした。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備してグループで音程を確認しながら練習ができるようにした。</p>	<p>「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図もっている。</p> <p>【創① ワークシート・行動観察】</p>
	<p>(4) 成果発表をし、感想を伝え合う。</p>	<p>○グループを2つに分けて、歌う側と聴く側になり、互いにアドバイスをを行うことができるようにした。</p> <p>○グループに1台ずつキーボードを準備してグループで音程を確認しながら練習ができるようにした。</p> <p style="text-align: center;">発問の工夫③</p> <p>○歌い方を工夫しながら、更に気が付いたことがなかったかを話し合う時間を設けた。</p>	
開	<p>★「声が響き合う」「声が溶け込む」ように、どこを、どのように気を付けて歌いたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1小節目と3小節目の歌い出しが遅くならないように歌いたい。 ・ 8回反復される  のリズムがずれないように、しっかりリズムをつかんで歌いたい。 ・ 歌い出しは、はっきりと声を出して、正しい和音で歌いたい。 ・ 3フレーズ目の2番目の音が下がらないように気を付けたい。 		
(5) 副次的な旋律を合唱する。	<p>○更に気がついたことは、ワークシートに書き加えさせた。</p> <p>○時間短縮のために、部分練習をさせた。</p> <p>○歌詞の内容に着目した工夫についても、グループで確認させた。</p> <p>●どこをどのように歌うかについて考えをもつことができない児童には、友達のワークシートや発言内容を参考にさせた。</p>	<p>○互いのグループの演奏を聴いて、感想やアドバイスを伝え合わせた。</p> <p>○旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分のそれぞれについて、工夫したことを発表させ、工夫を高め合うことができるようにした。</p>	
	<p>○CDに合わせて歌わせることで、和声の響きの美しさを感じ取りながら三部合唱ができるようにした。</p> <p>○CDに合わせて歌わせることで、旋律が1つになる部分と3つの旋律が重なる部分を意識して歌うことができるようにした。</p>		

／ ま と め	4 次時の学習を知る。	○グループで書き込んだ拡大楽譜は、次時の学習で使用できるように掲示した。 ○次時は、三部に分かれて合唱することを伝えた。 ○本時のめあてを振り返らせ、次時への意欲を高めさせた。	
------------------	-------------	--	--